

曜日
限定

若者に広がる 間借り事業

学生運営のカレー店、移住した若者が選書する書店、バンドマンが運営するライブハウス。今年に入り、県内の10、20代が既存のスペースを活用し、曜日限定で新事業を始める事例が相次いでいる。平日は本業に力を注ぎながら、少ない元手と低リスクで新事業に挑戦できるメリットがあるようだ。

(文化生活部・菊地真生)



カレー店「&Curry」浜松・中区

学生が運営交流の場に

静岡大情報学部2年の相馬大和さん(20)は河津町出身。静岡文化芸術大文化政策学部3年の今村理沙さん(20)は沼津市出身。1月中旬、浜松市中区利町に週末限定営業のカレー店「&Curry」をオープンした。平日は本業に精を出し、金、土、日の夜はシェアスペースを間借りして営業している。大学入学当初から、多様な人が交流できるコミュニティを作りたいと考えていた相馬さん。昨年たいた焼き店をシェアスペースで、併店も日替わりで入居する。カフェでもバーでもなくカレー店にした理由は「みんなが好きなカレーなら、ジャンルを超えて人が集まるから」と相馬さん。メニューは、店の向かいの Snackbar「タイムトネル」のママから教わって開発したカレー(600円)と、インドカレー風の「まかないカレー」(700円)。

「通りがかりの社会人が立ち寄りたり、スナックのお客さんが食べに来たりと、新たな循環ができてきた」と今村さんは実感する。4月下旬には、20平方メートルのカレー店に西部地域の大学に通う10人以上の学生や留学生が集合し、「春休みの経験談」をテーマに旅行やボランティアなどの体験を語り合った。参加者は「ここに来れば学外の人と会えるから楽しい」と声をそろえる。相馬さんは「今は学生が多いが、人のジャンルの幅を限定したくない。味やメニューの幅を広げながら、人との交流が生まれるリアルな場を提供したい」と力を込めた。